

日本高圧ガス容器バルブ工業会



事務局長 鈴木 博

〒104-0061 東京都中央区銀座1-27-8 セントラルビル703号
電話 03-5524-1011

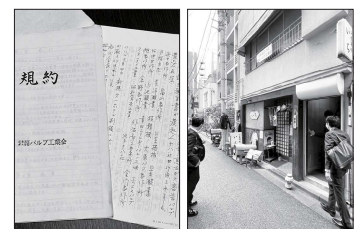
■日本高圧ガス容器バルブ工業会は、1963年12月に「高圧ガス容器バルブ産業界の健全な発展を期し、バルブの品質の向上に関する技術的諸問題及び経済的諸問題等についての研究調査を行い、関係官庁ならびに団体と連絡協同して、公共の安全を確保するとともに会員相互親睦を図ることを目的」として、業界18社が発起人となり任意団体として設立しました。（現在は会員企業数6社となっております。）

■当工業会の活動としては、会員各社の代表者で構成する理事会において各社共通の「高圧ガス保安」に関わる課題（古くは容器再検査時のバルブ交換の法制化や附属品国検制度施行時の対応協力、10年ほど前ではLPガス容器用バルブの「いきつき現象*」についての見解取り纏め、津波や豪雨等の災害発生時に回収された容器用バルブの取扱いについての広報活動、最近ではPFAS規制への対応等）について協議し必要に応じて政策提言を行っております。さらに、理事会の下にシームレス技術委員会（主にシームレス容器用バルブに関する技術課題）及びLPガス技術委員会（主に溶接容器用バルブに関する技術課題）を設け、経済産業省や高圧ガス保安協会からの意見取り纏め要請や調査依頼に対応させていただいております。また、高圧ガス保安協会のISO / TC58及びISO / TC220の国内審議委員会への技術委員の派遣、日本産業・医療ガス協会の技術・保安部会超低温貯槽WGや容器技術WG、国際部会国際整合化会議（IHC）WGへの技術委員の派遣も行っております。また、バルク貯槽用附属機器については、日本エルピーガスプラント協会のWGには当工業会の会員企業が個別に参加し、保安活動、及び基準類作成に携わっております。

*バルブ内部にあるガスとは遮断された空間にある空気がバルブの開閉により呼吸する様に外部に出ること

■さて、産業ガス容器用バルブ需要は、高圧ガス保安協会の附属品検査の統計資料によると、圧縮ガスを充てんする容器用は、過去10年間で大きな変動はなく、2023年度は、74万個、2024年度は81万個で推移しています。また、液化ガスを充てんする容器用は、2021年度より大幅に数量が増加しており、2023年度及び2024年度はそれぞれ150万個を超える数量となっています。一方、LPガス容器用バルブは2011年度から減少傾向が見られ、2023年度は730万個、2024年度は840万個となっています。

■当工業会は非常に小体ではありますが、我が国唯一の高圧ガス容器用バルブ専門メーカーによる工業会として、60年以上の歩みを続けてきております。今後においても、環境にやさしく豊かな社会を支えるクリーンエネルギーとしてのグリーンLPGや水素の供給システム、半導体のみならずあらゆる面で高度化・多様化する工業用ガスの供給システム、医療用ガスや食品産業用ガスの供給システム等で保安の要（かなめ）となる高圧ガス容器用バルブは姿・形が変化し進化していくものと考えられます。当工業会も会員各社の協力を得て、社会や産業界とともに変化し進化するよう努めてまいります。



当工業会小史の一部 旧事務所



結成40周年記念懇親会